

東京国際大学 vs 駒澤大学

6月15日(日)
13:00K.O.
古河

2部から昇格した東国大だが、現在10位と1部の壁に苦しんでいる。ただ、10節の順大戦は、2点をリードされながらも同点に追いつき粘りを見せた。風下だった前半は思うような戦いができなかったが、後半は風上だったので、前からプレスをかけることができた。1年生が活躍した試合だった。上級生にもいい刺激になったのでは。2点のビハインドから追いつけたことは、とてもよかった(前田秀樹監督)

これをコンディションなどの状況に左右されることなく、1試合を通してできるようにしていきたい。

「駒大も同じ昇格組。昨季は駒大相手に負けなしだったので、うちに対してかなり燃えてくるのではないかな。うちもそれ以上の気持ちを持って戦いたい。最終節に勝って、前期を終えたい」(前田監督)

その駒大だが勢いが止まらない。リーグ戦では5節から4連勝。その後、2連敗と苦しい状況に追い込まれたが、「アミノバイタル」カップでは再び粘り強さを発揮し、見事に準優勝を飾った。決勝戦では専大に3-5と、失点の多さは気になるところだが、上位チームと渡り合える力があることを証明したといえるだろう。

リーグ戦では2試合ノーゴールだけに、いかに自分た

ちのサッカーを徹底して、ゴールを奪うかというところを追求したい。10節終了後、「セットプレーは多かったが、キッカーとボールを受ける側の意思疎通がうまくできていなかったと思う」

と、秋田浩一監督は語っていたが、「アミノバイタル」カップでもゴールこそ奪ったが駒大らしさという点では物足りなかった。繰り返しになるが、まずは自分たちらしさを出すことだろう。

出場停止: 藤洋介(東国大) 警告3回: 福島達(東国大)、伊藤慎人、唐木沢真也(以上駒大)
昨年の対戦(2部): 前期/東国大1-0駒大、後期/東国大3-3駒大

東国大		駒大	
37. 国井	39. 成田	11. 小牧	13. 大木
5. 鈴木	32. 進		4. 平尾
	10. 若井		10. 板倉
1. 上平		9. 小牟田	1. 秋山
	8. 上船	15. 須貝	25. 唐木沢
15. 舩田	9. 福島		5. 伊藤
29. 新聞	22. 菅原	19. 吉岡	16. 柳川

桐蔭横浜大学 vs 慶應義塾大学

6月15日(日)
15:20K.O.
古河

現在9位と元気がない桐蔭大。10節の流経大戦は2-1で勝利を飾り、

「先制してそのままの流れでいければよかったが、同点とされてしまった。ただ、いつもだったら引き分けたり、逆転をされるが多かったが、今日は勝ちきることができたので、その成長したと思う」(八城修監督)

というように、ディフェンス陣の粘り強さも手伝って明るい兆しがあった。

しかし、「アミノバイタル」カップでは、1回戦で平国大に0-1の敗戦を喫してしまった。相手にしっかりと守られると、なかなか崩しきれないという課題が露呈。今節の対戦相手である慶大も、ディフェンスはかなり強固なだけに、どうゴールを奪っていくのか。

「いい攻撃がいい守備を生むということで、少しずつ自信を取り戻せてきていると思う」(八城監督)

10節の戦いを続けていきたい。

リーグ戦開幕当初の勢いはやや衰えてしまった慶大。現在5位で、首位・専大との勝点差は5。これ以上は離されたくないところだ。10節の駒大戦は2-0の完勝。「相手に点を入れさせないんだという強い気持ちを持ってやったことと、相手の攻撃に対してカバーがきちんと

できていたことが、無失点に抑えられた要因だと思う」(須田芳正監督)

相手に攻め込まれてもセカンドボールをしっかりと拾い、自由に攻撃をさせないということができている。一方、「アミノバイタル」カップの1、2回戦はよかったが、青学大、流経大に敗れてしまい全国大会の出場権を逃した。あと一歩が足りないものの、ここをしっかりと乗り越えれば後期リーグ、強い慶大が見られそうだ。

警告3回: 金子雄祐(桐蔭大)、溝淵雄志(慶大)
昨年の対戦: 前期/桐蔭大2-1慶大、後期/桐蔭大4-1慶大

桐蔭大		慶大	
19. 中島	7. 山根	7. 川田	3. 溝淵
40. 時田	9. 今関	27. 山本	6. 望月
	5. 大野		8. 山浦
21. 田中雄			1. 峯
	6. 福島		29. 浅間
4. 古澤	28. 石川	15. 宮地	2. 久保
11. 石堂	8. 山崎	11. 増田	19. 井上

※布陣は10節のメンバーを参考にした予想

JR東日本カップ 2014 第88回 関東大学サッカーリーグ戦

OFFICIAL MATCHDAY PROGRAM

VOL.26-NO.11 Division1



編集: 加茂郁実 発行: (一財) 関東大学サッカー連盟 協力: 関東大学サッカーサポーターズクラブ

いよいよ迎えた前期最終節、首位で折り返すのは!?

4月に開幕した「JR東日本カップ 2014 第88回 関東大学サッカーリーグ戦」だが、10節で小休止。5月31日から行われた「アミノバイタル」カップ2014第3回関東大学サッカートーナメント大会(兼総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント大会関東予選)以降、「アミノバイタル」カップと表記)に各チームとも参加した。ここで調子が上がったチーム、思うような結果を残せなかったチームがあるが、同大会を振り返ってみよう。「アミノバイタル」カップで優勝したのは専大。リーグ戦10節では明大に1-1のドローだったが、ここぞというところで勝ちきる力は健在だった。2位で全国出場を遂げた駒大は苦しい戦いが多かったが、粘りのサッカーを実践。リーグ戦は9、10節と2連敗だったが、これでもようやく再び波に乗れるか!?

3位の国士大もようやく調子が戻ってきた様子。リーグ戦では10節では勝利を収めており、ここから一気に上昇気流に乗っていききたいところ。4位は2部の青学大が健闘。5位・流経大は本来の強さはまだ戻ってきていないものの、粘り強さが徐々に発揮されてきているため、ここから総理大臣杯も含めて一気に台風の目になる可能性がある。6位は2部の法大で、1部は4チームが総理大臣杯の切符を手にした。そのほかのチームは残念ながら敗退となり、中でも慶大はあと一歩のところまで全国大会の切符を逃したものの、リーグ戦10節では駒大を相手に2-

得点ランキング		アシストランキング	
前澤 甲気(専大)	8点	北出 雄星(専大)	5アシスト
山根 視来(桐蔭大)	7点	堀田 稜(早大)	4アシスト
佐野 翼(順大)	6点	以下3アシスト6名	
近藤 貴司(早大)	5点		
藤本 佳希(明大)	5点		

0の完封と守備は好調。明大も全国大会出場はならなかったが、リーグ戦10節では専大相手に1-1のドローと互角の勝負を演じた。逆に心配なのは順大で、リーグ戦では2位をキープしているが、「アミノバイタル」カップは2回戦敗退。桐蔭大、東国大も「アミノバイタル」カップでは好成績を残すことができなかった。さらに、中大は1回戦敗退。リーグ戦10節も1-2の敗戦と、なかなか調子が上がってこない。筑波大も同じく1回戦敗退で、リーグ戦10節は0-1と勝てない試合が続いている。いよいよ迎えた前期最終節。「アミノバイタル」カップを挟み、波乱も十分にありえるだろう。首位で折り返すのは専大か、順大か、早大か!?

JR東日本カップ 2014 [第88回] 関東大学サッカーリーグ戦 星取表

順位	チーム名	専大	順大	早大	明大	慶大	国士大	駒大	流経大	桐蔭大	東国大	中大	筑波大	試合数	勝数	分敗	負数	得点	失点	得失差	勝点
1	専大		1●2	6月15日	1△1	2△2	200	600	201	502	200	402	200	10	7	2	1	27	10	17	23
2	順大	201		0△0	0△0	0●1	201	100	301	401	2△2	6月15日	200	10	6	3	1	16	7	9	21
3	早大	味フィ西	0△0		1●2	200	301	301	1△1	0△0	200	201	100	10	6	3	1	15	6	9	21
4	明大	1△1	0△0	201		0●2	6月14日	200	0●1	401	100	1△1	301	10	5	3	2	14	8	6	18
5	慶大	2△2	100	0●2	200		0△0	200	0△0	6月15日	0●2	201	100	10	5	3	2	10	7	3	18
6	国士大	0●2	1●2	1●3	味フィ西	0△0		2△2	201	100	1△1	201	300	10	4	3	3	13	12	1	15
7	駒大	0●6	0●1	1●3	0●2	0●2	2△2		300	302	6月15日	201	403	10	4	1	5	15	22	-7	13
8	流経大	1●2	1●3	1△1	100	0△0	1●2	0●3		1●2	403	100	6月14日	10	3	2	5	11	16	-5	11
9	桐蔭大	2●5	1●4	0△0	1●4	古河	0●1	2●3	201		200	1●3	301	10	3	1	6	14	22	-8	10
10	東国大	0●2	2△2	0●2	0●1	200	1△1	古河	3●4	0●2		100	1△1	10	2	3	5	10	15	-5	9
11	中大	2●4	味フィ西	1●2	1△1	1●2	1●2	1●2	0●1	301	0●1		0△0	10	1	2	7	10	16	-6	5
12	筑波大	0●2	0●2	0●1	1●3	0●1	0●3	3●4	味フィ西	1●3	1△1	0△0		10	0	2	8	6	20	-14	2

体育会学生のための
リクナビ就職エージェント

自分のフィールドを探そう。

部活と就活にエールを送る! 体育会学生のための「リクナビ就職エージェント」

リクナビ 体育会

RECRUIT

筑波大学 vs 流通経済大学

6月14日(土)
11:30K.O.
味フィ西

前期リーグはまったく元気がない筑波大。リーグ戦はもとより、「アミノバイタル」カップ1回戦も2部の法大に敗戦と、勝ちきれない試合が続いている。半面、1回戦で敗れたため、前期最終節まで時間は十分にあった。この間、どれだけチームを立て直すことができたか。

10節の早大戦では、「力がないから勝てない。ボールを持っている時間も押し込んでいない時間もあった。しかし、最後の決定的なところで勝ちきれず、負けてしまった」(中山雅雄監督)というように、いつもの決定力不足を露呈。ボールを保持することに終始してしまい、結局0-1の敗戦を喫してしまった。とにかく10試合で6ゴールと、試合を支配しているわりにはゴール数が少なすぎる。そこを修正していかなければ、今後も厳しい試合が続くだろう。対する流経大も厳しい戦いが続いている。それでも、「アミノバイタル」カップでは順位決定戦を勝ち上がり、総理大臣杯出場を決めた。調子は上向きだけに、最終節はしっかりと勝点3を手にして前期を終えたい。流経大の悩みも得点力だ。リーグ戦では10試合で11得点。「アミノバイタル」カップでも順位決定戦こそ1試合で2得点を決めたが、1、2回戦は1-1。かろう

じてPK戦で次へ駒を進めたという、際どい内容。なかなか安定した戦いができず、リーグ戦10節は桐蔭大に1-2の敗戦。「もったいない試合だった。前半、スコア的には0-1だったが、内容的には3-1くらいに評価できる。負けていたが、内容はよかった」(中野雄二監督)あとはしっかりとゴールを決めきり、勝点3を取れるかどうかのポイントだ。

警告3回：西村洋平、車屋紳太郎(以上筑波大)
昨年の対戦：前期/筑波大1-1流経大、後期/筑波大1-1流経大

筑波大		流経大	
3. 三丸	12. 二上	7. 森保	
		26. 藤原	
5. 西村		12. 藤山	
7. 車屋		25. 古波津	
30. 有賀	9. 若杉	32. 川上	5. 川崎
10. 中野嘉		22. 坂田	
13. 斎藤		10. 野口	
8. 早川		11. 富樫	9. 田上
34. 浅岡	6. 片岡	2. 湯澤	

中央大学 vs 順天堂大学

6月15日(日)
15:30K.O.
味フィ西

リーグ戦11位と元気がない中大。「アミノバイタル」カップも1回戦敗退と、苦しい状況が続いている。リーグ戦10節の国士大戦は、接戦ながら1-2の敗戦。「一番大事なゲームの仕上げ方がなっていなかった。最後のところ以外の時間はゲームをコントロールできていた。自分たちのペースでチャンスを作っていた。そのときのメンタルが90分続けられるようにしたい」(白須真介監督)ここまでのいずれの試合を見ても決して悪い内容ではないし、相手を圧倒することも多い。ただし、そこでしっかりとゴールを奪えなかったり、簡単に失点してしまうのが今の中大の問題点だ。「失点してからの時間で受け身になってしまった。メンタルがもったいなかった」(白須監督)残留圏内の10位・東国大との勝点差は4ポイント。少しでも縮めて折り返したいところだ。前期リーグ、一番の驚きは順大の快進撃だろう。6勝3分1敗の2位で、首位・専大との勝点差はわずかに2ポイント。十分に優勝を狙えるポジションだ。しかし、安定して力を発揮できないのが問題点。「アミノバイタル」カップでは2回戦で法大に敗れ、総理大臣杯の出場

権を逃してしまった。10節の東国大戦も、「チームのコンセプトとしてやっている速く攻めることや、高い位置でボールを奪うということに関してはよかったと思うが、後半はその姿勢がなく、結局は相手の勢いでやられて、失点してしまった」(岡崎孝幸コーチ)2点リードを追いつかれたのだけに、精神的にもダメージは大きい。専大にくらいついて、前期リーグを終えることができるか!?

警告3回：橋本龍馬(中大)
昨年の対戦：前期/中大2-0順大、後期/中大1-2順大

中大		順大	
15. 縣	35. 藤橋	23. 新里	3. 吉永
3. 小出	9. 内田		5. 新井
	17. 飯干		7. 内山
1. 前田		20. 佐野	21. 大畑
	25. 三島	10. 長谷川竜	
5. 岡崎	10. 砂川	6. 長谷川涼	4. 谷奥
39. 鴨池	11. 古橋	22. 米田	13. 宮本

明治大学 vs 国士舘大学

6月14日(土)
13:50K.O.
味フィ西

第10節終了時点で4位とリーグ戦では粘り強さを発揮し、上位に上がってきた明大。しかし、「アミノバイタル」カップでは2回戦で青学大に敗れ、総理大臣杯の出場権を手にするにはできなかった。それだけに、このリーグ戦にける思いは強い。現在、首位・専大との勝点差は5ポイント。少しでも縮めて、後半戦に望みをつなげたいところだ。10節の専大戦は1-1のドロー。王者を追い詰めたが、勝ちきることはできなかった。「前線からプレスにいて、ブロックを作ってボールを奪うというサッカーを積極的にやろうと思っていた。立ち上がりはやられてしまっていた。失ってはいけないところでボールを失っていたが、途中からボールをしっかりと保持し、簡単に失わなくなった。そこが流れを引き寄せた要因。自分たちでどう修正するのか、どう試合を作り出せるかを追求してきた」(栗田大輔監督)試合巧者にはなっているだけに、結果につなげていきたい。一方の国士大は去年の後期リーグのような勢いがなく、現在6位。ただし、「アミノバイタルカップ」では順当に勝ち進み3位。攻撃陣に勢いが出てきたのがブラ

ス材料だ。この勢いで、守備がしっかりとしている明大のディフェンスを、いかに崩すことができるかがカギとなるだろう。リーグ戦10節の中大戦は2-1で勝利を収めたが、「前半の試合の運びはいただけない。ボールに対しての反応やラインの上げ下げが遅かった」(細田三三監督)というように、やや試合運びの面で不安定な部分もあっただけに、そこは修正していきたい。

警告3回：小谷光毅(明大)
昨年の対戦：前期/明大2-1国士大、後期/明大1-2国士大

明大		国士大	
6. 高橋	8. 石原	20. 田中	25. 中村
13. 小池	9. 矢島	11. 平松	3. 福田
	17. 小谷	38. 平野	
1. 三浦			30. 大谷
	7. 差波	8. 松本	
3. 山越	32. 木戸	16. 木下	5. 仲島
2. 室屋	27. 瀬川	10. 進藤	12. 藤寄

専修大学vs早稲田大学

6月15日(日)
17:50K.O.
味フィ西

例年ほどの強さを発揮できていない専大。10節の明大戦は1-1のドローに終わった。しかし、ここぞというところで力を発揮できるのが底力。「アミノバイタル」カップは見事優勝を果たし、王者健在を見せつけた。一方で、この大会を見てもわかるように、試合によってはなかなかゴールをこじ開けられないシーンが目立つ。シュート自体が少ないこともリーグ戦では見られた。いかにゴールを奪っていくかが、4連覇への大きなカギとなるのは間違いない。10節の明大戦は、「惜しかった。前半は内容がよかったが、後半は中盤のところで劣勢になり、なかなかチャンスを作れなかった。久しぶりにスタートがよかった」(源平貴久監督)終盤に強い専大だが、今年はその終盤に苦しむことが多いのも気になる。「早大との相性のよさを生かしたい」(源平監督)3位の早大だが、首位・専大との直接対決だけにチャンスといえる。勝てば首位でリーグ戦を折り返す可能性もあるだけに、大事な一戦だ。ただ、早大はここ数年、こういった直接対決で勝ちきれない。また、「アミノバイタル」カップも5・6

位決定戦の1回戦で法大に敗れてしまい、総理大臣杯の出場権を逃した。あと一歩で勝ちきれないという精神的な弱さを払拭し、粘り強さを見せることができるかがカギ。

10節の筑波大戦では、「積極的に相手の背後にアクションを起こしていた。ボールを失ったとしても、そこから攻守の切り替えで奪い返し、チャンスを作ることができていた」(古賀聡監督)そのサッカーを90分続けてできるかどうかだ。

警告3回：前線からプレスにいて、ブロックを作ってボールを奪うというサッカーを積極的にやろうと思っていた。立ち上がりはやられてしまっていた。失ってはいけないところでボールを失っていたが、途中からボールをしっかりと保持し、簡単に失わなくなった。そこが流れを引き寄せた要因。自分たちでどう修正するのか、どう試合を作り出せるかを追求してきた」(栗田大輔監督)試合巧者にはなっているだけに、結果につなげていきたい。一方の国士大は去年の後期リーグのような勢いがなく、現在6位。ただし、「アミノバイタルカップ」では順当に勝ち進み3位。攻撃陣に勢いが出てきたのがブラ

専大		早大	
46. 大瀬	11. 前澤	7. 近藤貴	22. 新井
3. 萩間		9. 宮本	2. 奥山
	6. 河津		23. 園田
1. 福島	7. 北出	9. 山川	1. 松澤
	8. 星野		6. 近藤洋
34. 中嶋		14. 堀田	3. 田中進
2. 北爪	10. 仲川	15. 上形	13. 西山